

朗読の森

～山本周五郎“人情・時代小説”「牡丹花譜」より～

2025年6月29日(日) 14:00開催

～作品紹介～

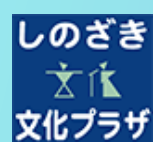
黒上奈々は十八歳、黒上家の牡丹畑の花にも勝る美しさと、武芸に長ける勇猛さから「黒上家の牡丹姫」と呼ばれている。そんな美しい奈々に胸を焦がす従兄の常次郎は、日毎に募る胸の想いを伝えたいが、奈々の心は固い蕾のように閉じて開かない。ある日、常次郎と稽古に励んでいた奈々は、五人の荒武者に囲まれた白面の青年を発見し助けた。それから奈々は、助けた青年のことが忘れられなくなる。奈々、常次郎、青年それぞれの想いが意外な方向へと進んでいく。

作者：山本周五郎(やまもとしゅうごろう) 1903年-1967年
日本の小説家。質店の徒弟、雑誌記者などを経て文壇に登場。庶民の立場から武士の苦衷や市井人の哀感を描いた時代小説歴史小説を書いた。

参加費：無料

定員：40名(中学生以下保護者同伴)

会場：篠崎文化プラザ 3階講義室



主催：篠崎文化プラザ
東京都江戸川区篠崎町7-20-19
都営新宿線篠崎駅西口直結 徒歩2分

お申込み

6月3日(火)14時～

電話もしくはHPより

03-3676-9071



朗読の森

～山本周五郎“人情・時代小説”「柿」より～

2025年6月29日開催
参加無料

出演者プロフィール

おかざき

岡崎ちか子（朗読の森・主宰）

千葉県市川市在住。演劇、ミュージカル、即興演劇を中心に活動。各種専門学校、声優養成所等の演技講師、フィットネスクラブ等（ボイス・アクト、ストレッチ）講師。2004年より「朗読の森」主宰。即興演劇を取り入れた朗読講座は老若男女楽しめる。江戸川区を中心に図書館、学校、イベント等、地域密着の公演は人気が高い。

むとう

武藤ひとみ

江戸川区在住。高校生の時に朗読の森と出会い、現在社会人となり益々活躍中。朗読の森の即興演劇（アクトクラス）でも持ち前の明るさと元気で存在感を示す。鍛えた発想力・創造力を活かし、エッセイや小説を執筆。毎年恒例の発表会では、自作の作品を朗読し大好評

朗読の森プロフィール

ろうどく もり
朗読の森

朗読の森は江戸川区を中心に活動しています。

朗読、朗読劇、インプロ（即興演劇）を楽しく学びながら学校、図書館劇場公演、そしてワークショップ開催等、多岐にわたり活動。

子供から大人まで様々な作品の楽しさを伝えています。